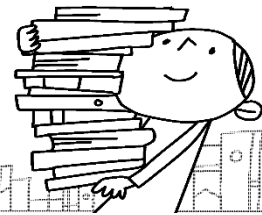


みんなでつながる わ！



今回は、2年生の研究授業の様子を紹介します。

2年生は、読む教材「紙コップ花火の作り方」で学んだ説明文の工夫を書く教材「おもちゃの作り方をせつめいしよう」に活かす学習をしました。

ひがしとりっこまつりで、おもちゃの作り方をせつめいしよう
「紙コップ花火の作り方」
「おもちゃの作り方をせつめいしよう」2年生

本時の目標

- おもちゃの作り方を一年生にわかりやすく伝えるために、「ことばたからばこ」を活用して文章を書くことができる。(知(1)オ)

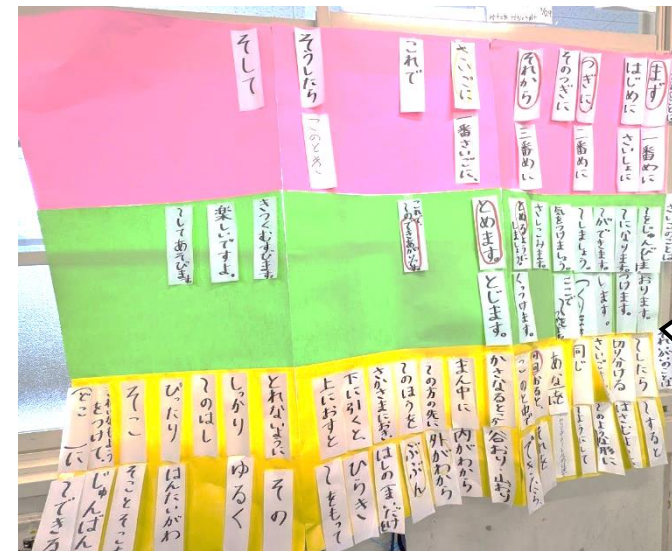
④ ひがしとりっこまつりで
一年生におもちゃの作り方を
せつめいしよう。

①	10/22	めあてのたぐいに計画を立てる	紙コップ花火を作る。おもちゃを作る。
②	10/23	「紙コップ花火の作り方」を読む	
③	10/28	せつ明のきらきらたからばこに、ことばをためる	
④	10/29	「けん玉の作り方」を読む。	
⑤	30	せつ明のきらきらたからばこに、ことばをためる	
⑥		どう画をみて、きらばこにためる	
⑦		せつ明文を書く。	
⑧		友だちと読み合う。	
⑨			
⑩		おもちゃの作り方のせつ明文かんせい!	

本時の流れ(本時7/12)

- めあてを立てる。
1年生にもわかりやすい説明文を書く。
- 「きらきらたからばこ」、動画・経験を参考に「作り方①」を説明する文章を書く。→全体交流
- 「作り方②」を説明する文章を書く。→全体交流
- 本時の学習を振り返る。
めあてである「わかりやすく文章にまとめられたか」について、『ふりかえり名人』を用いて振り返る。

図工でおもちゃを作成し、その過程の動画を撮影。撮影した動画を4つのシーンに分けていました。

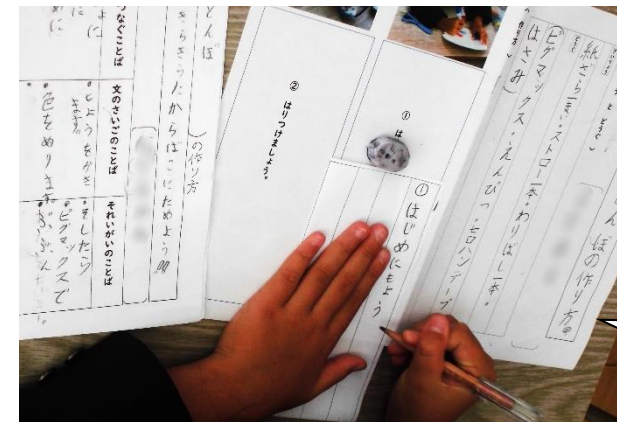


説明のきらきらたからばこ
上段…下に文をつなぐ言葉
中断…文の最後の言葉
下段…それ以外
※子どもたちが命名。

子どもたちは、「思ったよりできる!」と文章の中からの的確に、見えそうな言葉を見つけていました。【3・5時】

動画と図工での経験から、説明するおもちゃ「紙ざら竹とんぼ」で使える言葉を出し合い、まとめた表。黒板に掲示。【6時】 ※1

①	②	③	④
はじめに、色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。	はじめに、色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。	はじめに、色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。	はじめに、色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。色をぬります。もようをかきます。



自分で集めた「きらばこ」(左)から言葉を選び、書いています。文章量を子どもたちが選べるように、工夫していました。

☆ヒントカード☆

※1の「きらばこ」を手元で見られるように作成。穴埋め式のヒントカード(中央)も用意しています。

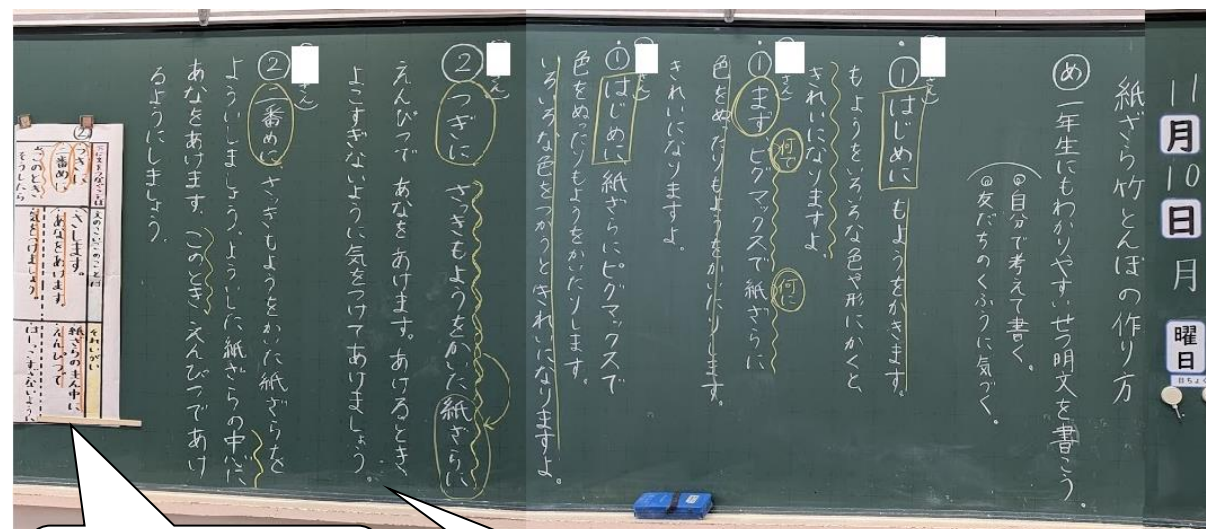
作り方②に進むと、「今回、ヒントなしでがんばろう。」「いけるやろ。」とほとんどの児童がヒントカードなしで取り組んでいました。



全体交流

自分と同じ表現や友だちの分かりやすい表現を見つけ、発表。

どんな、どこに、何を、など修飾部に着目させ、1年生に伝わるかを基準に話し合っていました。



※1 の掲示を折って、使うシーンのところだけを掲示。

②段落は、留意点も書けています。

【研究協議より】

- ・この取り組みで、子どもたちは、「短い文でも分かりやすい。」と簡潔な文のよさにも気づけていた。また、自学では、料理の説明などをしてくる子どもが増えた。
- ・「つぎに」という言葉が出たら、そこに留まらず「二番目に」という言葉を見つけていたように、どんどん派生して言葉を探したり、書いたり、発表したりする姿が見られた。
- ・今までの研究授業や研修で学んだことが、活かされた授業だった。
- ・子どもたちからも、「書けたから、言いたい！」など前向きな言葉がどんどん出ていたのが、成果の表れだった。

～授業者から～

これまで校内で研究授業をしてくださった3年生・4年生から学んだことを詰め込んで、単元を計画しました。学習のはじめ、「難しそう…」と不安気だった子どもたちが、「もっと書きたい！」と意欲的に取り組めていました。生活科、図工科など、教科を横断して学習できたのも良かったです。

できあがった作品

書くのがあまり得意でない子どもたちも、素敵な説明書にすることができました。一人ひとり、使う表現が違っているのも、味があります。

